

2026.3.2

内閣府「小さな拠点づくり」全国フォーラム

住民主体の地域 づくりを支える

社会福祉法人阪南市社会福祉協議会
事務局次長 猪俣 健一



01 地域福祉とは

01 地域福祉とは

地域福祉の定義

(住みなれた)地域社会のなかで、家族、近隣の人びと、知人、友人などとの社会関係を保ち、自らの能力を最大限発揮し、誰もが自分らしく、誇りをもって、家族およびまちの一員として、普通の生活(暮らし)を送ることができるような状態を創っていくこと。

—上野谷加代子—

同志社大学

上野谷加代子

阪南市社協での定義

2. 地域福祉とは

住み慣れた地域で…



ふ だんの
く らしの
し あわせ



を誰もが
感じられるような地域を、
みんなで
つくっていくことです。

阪南市社協『地域福祉のススメ』(2017)より

【キーワード】

“誰もが”

“地域”

“暮らし”

“創る”

01 地域福祉とは — 社会福祉協議会・住民主体 —

社協の位置づけ

- **地域福祉の推進**を図ることを目的とする団体。区域内における社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者が参加。(社会福祉法第109条)
⇒住民、当事者、ボランティア、地縁団体、NPO、
関係機関等で構成される「**協議体組織**」≡**中間支援機関**

2つの住民主体 — 社協は“推進装置” “盾”

- **権利主体** よりよい暮らしを送る権利を持った主体
- **自治の主体** 地域づくりの主体
(社会福祉協議会基本要項2025)



01 地域福祉とは —住民自治—

地域コミュニティレベル

- 地域住民が自主的に組織し、地域の課題解決やまちづくりに取り組む。
- 自治会、住民自治協議会、まちづくり協議会 など
⇒地縁型から、多様な主体を含むプラットフォーム型へ



自治体政策レベル

- 地方自治の2つの柱（団体自治・住民自治）
- 自治体政策の決定や運用に参加し意見を表明する（住民投票、住民訴訟、市政モニターなど）
- 統治→共治（ローカル・ガバナンス）へ
⇒地域づくり施策を行政と共にデザインする



01 地域福祉とは ー社協の仕事ー

ひとりを支える、地域を支える。

困りごとを受け止め 支援します

- 高齢者や障がいのある人、子どもたちの相談
- お金や仕事探し、生活に困っている人たちの相談
- 「こんなこと誰に相談したらいいんだろう?」「誰かに話だけでも聞いてほしい」というお気持ちを受け止めて一緒に解決策を考えます。



地域包括支援センター、日常生活自立支援事業、生活困窮者自立相談支援事業、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)事業など



ボランティア・地域 活動を応援します

- ボランティア活動の支援（活動や依頼の相談・マッチング）
- 地域住民による身近な地域での支え合い活動の支援
- 市全体のまちづくり・地域活動の支援・協働の架け橋
- 「何かしたい」「まちをより良くしたい」の気持ちを応援します。



ボランティアセンター、生活支援コーディネーター、小地域ネットワーク事業など

01 地域福祉とは ー社協の仕事ー

地域づくりを支える、コミュニティワーカーという専門家



コミュニティにおいて、困りごとを抱えた人や地域全体の課題に住民自身が気づき、その解決のための組織化、活動づくり、計画化、地域社会の変革・開発を行うことを、「コミュニティワーク」という専門援助技術を用いて住民と協働する人。

みなさんの自治体にも・・・

コミュニティワーカー

地域福祉コーディネーター

社協地域担当職員

生活支援コーディネーター

CSW（コミュニティソーシャルワーカー）

など様々な名称で配置されています。

02 阪南市における地域づくり

02 阪南市における地域づくり



海・山に囲まれた
自然豊かなまち

02 阪南市における地域づくり — 地域概況 —

	人口	年少人口率	高齢化率	面積
2006年3月	59,015人	14.8%	17.7%	36.17km ²
2025年3月	49,858人	9.3%	34.9%	



<特徴>

- 古くからの農漁村地域と開発40-50年の新興住宅

<特色>

- 紡績業・泉州水なす
- 大阪初！牡蠣の養殖

<課題>

- 急速な少子高齢化
- 坂のまち 移動困難



02 阪南市における地域づくり — 組織概況 —

阪南市社協は、誰もが住み慣れた地域で
安心して暮らしていけるよう
“共に生き、支えあう社会”を
本気でめざしています。

【組織・事業】

■理事17名、監事2名

■職員28名（本部18・地域包括支援センター10）

- 共生の地域づくり事業
- 小地域ネットワーク事業（校区福祉委員会支援：12校区）
- ボランティアセンター
- 生活支援体制整備事業
- 貸付相談事業
- 地域交流館管理事業
- 地域包括支援センター事業
- 民生委員児童委員協議会事務局
- 生活困窮者自立相談支援
- 日常生活自立支援事業
- CSW事業
- など



02 阪南市における地域づくり — 4つのステップ —



地域ネットワーク構築

- 2022年 重層的支援体制整備事業開始
- 2017年 厚労省「我が事・丸ごと」モデル事業開始
- 2016年 地域包括支援センター民間委託 包括ケアの推進

活動・プロジェクト開発

- 2017年 子ども福祉委員、農福連携実践の開始
- 2014年 買い物支援プロジェクトチーム設置
- 2011年 まちなかサロン・カフェ活動の全市展開

基礎的活動普及

- 2007年 市立病院内科閉鎖危機に地域医療を守る市民運動
- 2000年 公民協働の阪南市地域福祉推進計画策定
12小学校区で小地域ネットワーク活動開始

組織化

- 1998年 12小学校区に福祉委員会を再編
- 1981年 阪南市社協が法人化
- 1978年 4中学校区に福祉委員会を設置

地域づくりの
発展過程

02 阪南市における地域づくり — 組織化 —

校区(地区)福祉委員会の組織

- 地域内の各種団体代表 + 趣旨賛同のボランティア等
- 社協が事務局 → それぞれに地区担当職員配置
- 12校区で福祉委員508人、校区ボランティア116人

協議体 × 活動実践組織

組織構成

地域の各種団体	自治会・婦人会・老人会・民生児童委員・青少年指導委員・保護司・更生保護女性会・子ども会・PTA・漁協等
専門機関・団体	作業所・当事者組織・ボランティアグループ・福祉施設・学校・幼稚園・CSW・駐在所等
個人	ボランティア・趣旨賛同者 等

※あくまで一例で、校区ごとに構成は異なります。



02 阪南市における地域づくり — 基礎的活動 —

小地域ネットワーク活動



“ 元気にしてる？ ”

- 独居高齢者への声かけ訪問
- 民生委員、公民館クラブとの協働
- 災害時要援護者の平時からの見守り

福祉 × 社会教育
防災 × 福祉

他分野との協働

“ ここに来るのが楽しみ ”

居場所・交流
見守り
ニーズキャッチ
情報共有や発信
社会参加
介護予防
まちづくり

サロンカフェの7つの機能

- まちなかサロン・カフェ
- 歌のサロン
- 介護予防体操



02 阪南市における地域づくり — プロジェクト —

ひとりの声、思いから生まれたプロジェクト

- ”福祉と防災がバラバラ” ➡ 災害時要援護者支援プロジェクトチーム（公民協働）
- ”牛乳が買いに行けない” ➡ 買い物困難者支援プロジェクトチーム（公民協働）
- ”この子を知ってほしい” ➡ 発達障がいの子がいる「ママ会」
- ”部屋にたくさんの手芸品” ➡ 共生型サロン「きらきら」
- ”子どもも担い手に” ➡ 子ども福祉委員
- ”田んぼができない” ➡ 農福連携「おにぎり会」
- ”ボッチャ仲間がほしい” ➡ 「ボッチャたのしも会」

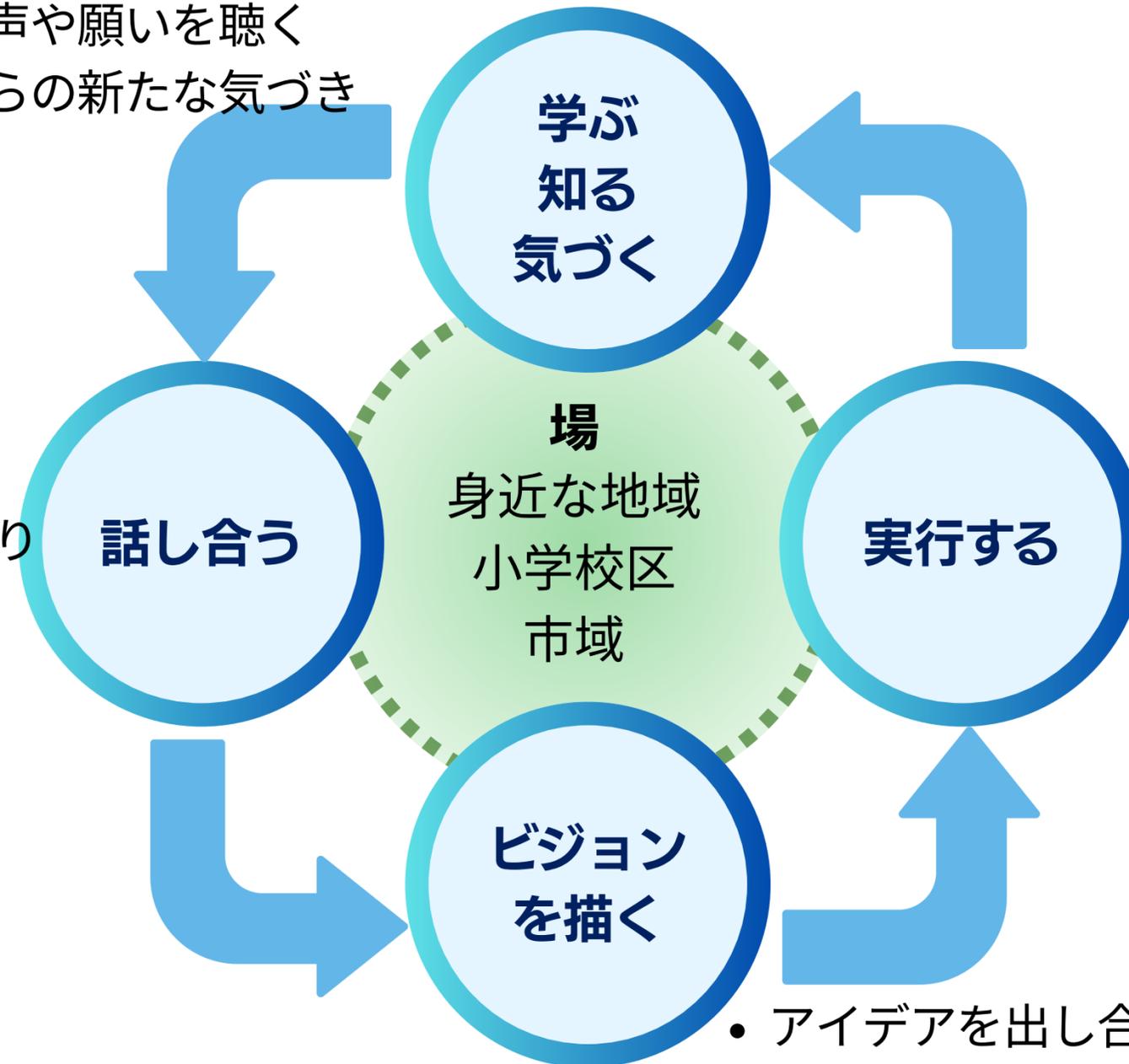
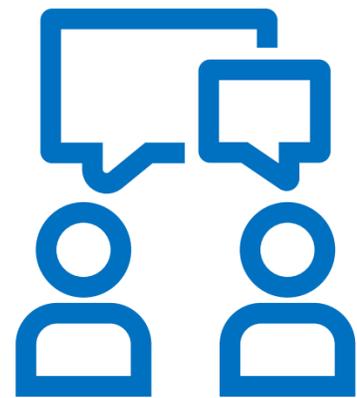


02 阪南市における地域づくり — 4つのサイクルー

- 地域を知る
- 切実な声や願いを聴く
- 活動からの新たな気づき

住民主体実践の
循環過程

- 協議の場、テーブルづくり
- 前向き、民主的な雰囲気づくり
- 住民や専門機関と話し合う



- とりあえずやってみる
- できないことは無理をしない
- 様々な人や団体と協働する

- アイデアを出し合う
- 中長期の展望、夢、計画化

03 具体的な地域づくり実践の紹介

03 具体的な地域づくり実践 —子どもが主役—

子ども福祉委員

小中学生が自主的に参加する地域ボランティア組織。
地域住民の提案から2017年度に事業化。市内3中学校区1小学校区で実施。



③ 具体的な地域づくり実践 —子どもが主役—

子ども福祉委員 ～守られる存在から地域の担い手へ～

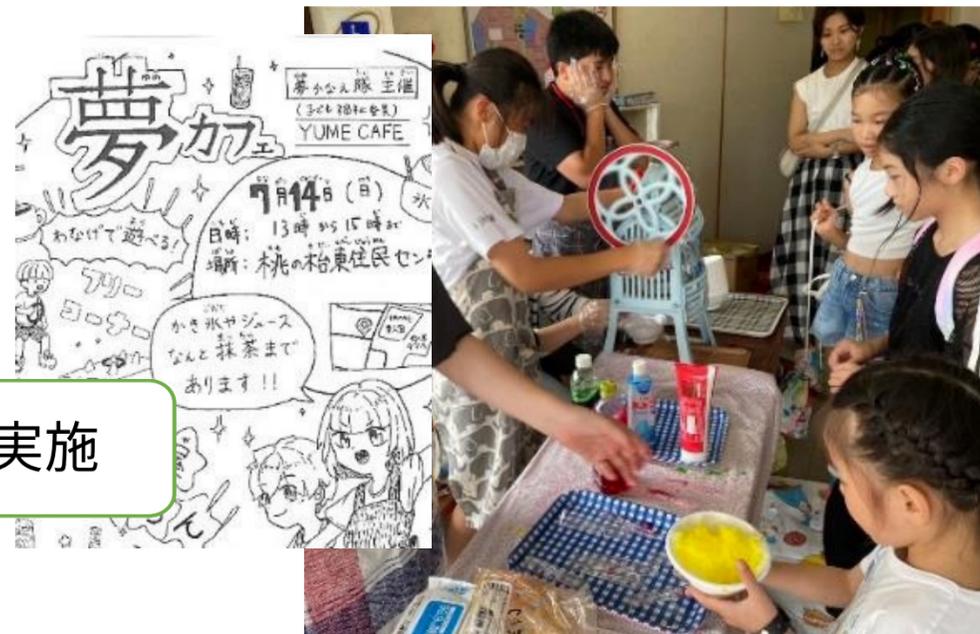
大掃除のお手伝い



買い物付き添い



カフェの企画実施



子どもサンタ訪問



03 具体的な地域づくり実践 —福祉×司法—

少年院ボランティア（泉南学寮グリーンサポーター）

▶院内でグループワーク



～できること・やってみたいこと～

- 高齢者のお話相手、子ども食堂のお手伝い
- 障がいのある子とスポーツで交流
- 不登校児を元気づけたい
- 庭の手入れ、力仕事
- 山や海の掃除

など

▶地域課題の解決

- カキ小屋お手伝い
 - 認知症高齢者宅の困りごと解決
 - 府営団地の高齢者買い物手伝い
- など



⇒ 『いままで1日でこんなにも “ありがとう” と言われたことがなかった』

03 具体的な地域づくり実践 — 地域拠点 —

地域拠点を核にした支え合いの地域づくり（舞校区）

あたごプラザ協議会



地域拠点

- ▶ 幼稚園跡地を市民が自主運営
- ・ 喫茶、貸し部屋、ホール
- ・ 自主講座や地域イベントの開催

舞校区福祉委員会



支え合い活動

- ▶ 住民による有償支え合い活動
- ・ 通院や買い物等の移送サービス
- ・ 家事や庭木剪定などの支援

舞ミライ会議（まちづくり協議会）



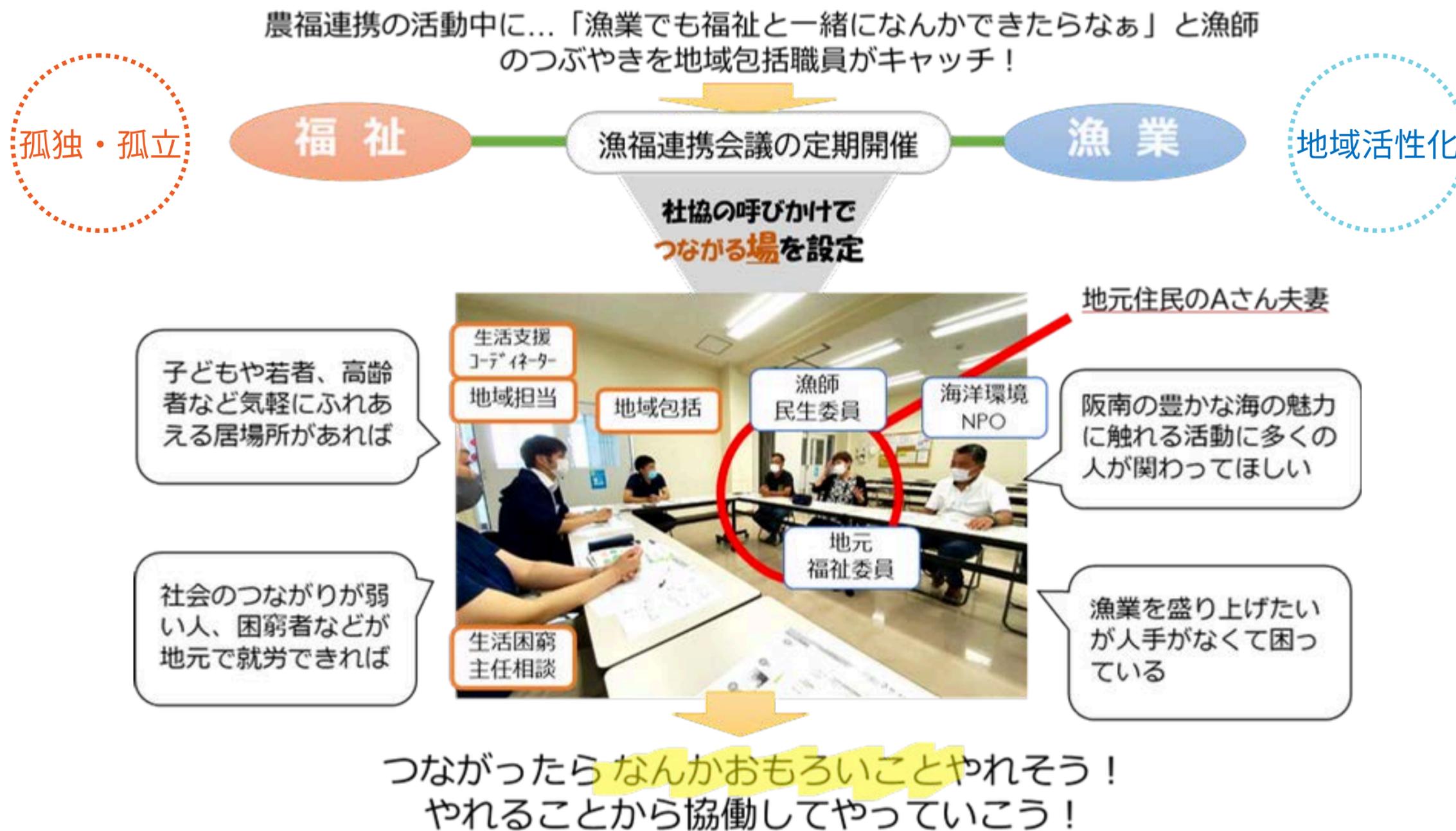
プラットフォーム

- ▶ 若い世代も含めたまちづくり
- ・ 緩やかなネットワーク組織
- ・ 子ども食堂やマルシェの開催

拠点を核に多世代がつながり “住みたいまち、住み続けられるまち” をめざす

03 具体的な地域づくり実践 — 多分野協働 —

漁福連携事業 ～福祉課題とまちづくり課題の出会い～



03 具体的な地域づくり実践 — 多分野協働 —

漁福連携事業 ～漁港という地域拠点～



▶ 共生の釣りプロジェクト

- 釣りを通じた居場所、交流の場
- 不登校生徒や認知症高齢者の参加、活躍

“ 諦めていた釣りができて嬉しい”

“ ぼく、ここで働きたい”



▶ 漁業就労や社会参加

- 牡蠣の養殖などの就労参加
- 少年院生による、廃棄牡蠣殻を使った石灰肥料づくりプロジェクト

⇒ 漁業や地域づくりへの貢献

第1回「小さな拠点」づくりHub in 阪南市 感想の抜粋

地域の方々が主体的に楽しんでおられる姿が印象に残りました。その姿勢こそ活動が長く継続する原動力になるのだと実感しました。

地域の仕事が好きで日々取り組んでいます。立場や方法は違えどめざす先は同じであることがなんだか嬉しく感じました。

都市計画課の立場で参加しました。福祉の観点から見るまちづくりについて知見を広げられたのはとても身になるものでした。

社会福祉協議会は住民主体の活動を活性化させていくうえで重要な役割であると気づいた。



ご清聴ありがとうございました。

ご関心を持たれた方はぜひ私たちの
応援団になっていただき、
阪南市の地域活動をより良くするた
めのご支援をお願いいたします。

福
Fukushi

農
Farm

食
Food

漁
Fishing

プロジェクト

詳しくはこちらQRコードから

福祉と多分野の連携は、地域産業の持続性や担い手不足の解消につながります。
産業と福祉が「ツナガル」ことで、人と人が結ばれ、誰もが社会の中で役割を持てる安心感が生まれます。
地域の価値と人の想いをつなぎ、孤独のない、より豊かなまちづくりを目指しています。

漁師鮮度 X 社会福祉法人 阪南市社会福祉協議会



ホームページ



HANNANSHI_SHAKYO



特別賛助会員



ご寄付